特定非営利活動法人手賀沼トラスト会報 第 10 号（発行日：平成24年 5 月 1 日）

「 沼 の ほ と り 」

発行責任者 遠藤織太郎（TEL：04-7182-0387） 編集責任者 國方幸生（TEL：04-7184-3385）
事務所：我孫子市白山二丁目 13 番 5 号
e－mail：info@teganuma-trust.jp ホームページ：http://teganuma-trust.jp/

活動報告 ジャガイモの植付け

農事・農教室グループ（3 月 25 日）

さあ、今日は農教室の最初の作物となるジャガイモの植付けだ。今年植えるイモは、キタアカリ、メイクイン、トウヤの 3 種類。なぜこの 3 種類かと言われれば、去年と同じで味、収量ともに良かったのと、買いに行ったジョイフル本田で箱売りしているのがこの 3 種類だったというだけ。芸がなくてごめんなさい。

最初は種イモを切り分ける作業。1 年次生を中心に 3 つのグループに分かれて、それぞれのイモを1個当り約40g に切り分ける。種イモ1個が大体 80～120g なので 2～3 個になる。ここで重要なのが、必ず切ったイモ片に芽を残す事。幸いにもすでにモヤシのような芽が出ているので分かりやすい。去年まではこの芽を先に摘み取ってしまったので、切る際に芽が残っているか不安がる人が多かったが、川瀬さんから「芽を残したまま切れば」とアドバイスを頂き大成功、ありがとうございました。

続いて、城址下圃場に移り植付けの準備。畝幅 65cm でピーンと張ったロープに沿って深さ 8cm の溝を掘る。初めて持つ鍬に悪戦苦闘している 1 年次生に先輩たちが助言をしてくれるが、言ってくれる事が、みな違うのでかえって悩んだ人も多いはず。でも大丈夫、巧い人の真似をいしてればすぐに上達しますよ！

最後に溝に藁灰をまぶした種イモを株間 35cm で植えていき種イモと種イモの間に鶏糞を一掴みずつ施肥して土をかぶせ軽く手で押してやり完了。今年から急遽始めた方法だ。この方法の良いところは溝に直接種イモを置いていくのでラインが綺麗に出る事、元肥の上に間土をする工程が無くなるので作業の手間が一つ省ける事だ。ただし、問題もある。老若男女、手のひらサイズが違うので、一掴みずつという単位では施肥量にバラツキが出てしまう。でも、そこは皆さん上手にやってくれたようで、準備した鶏糞はきれいに使い切ってくれました。今年もたくさんの収穫が出来ますように！ （福井 教之 記）

活動報告 えひめAIについて

農事・農教室グループ（4 月 14 日）

今日の農教室で、2 年次生以上の人を対象に、杉野副理事長より「えひめAI（ァィ）」についてのお話がありました。最初に、30 分ほどのビデオをみてとても分かり易い内容でよく理解できました。「えひめ AI」は 1999 年に愛媛県工業技術センターの曽我部義明さんという方が考案された環境浄化微生物資材です。ヨーグルト、納豆、パン酵母、砂糖など日常私たちが食用にしている原料だけで、特別な道具は使わず誰でも簡単に作ることが出来ます。元々は排水などの浄化処理のために開発されましたが、農作物や花に 1,000 倍程度に薄めて使うと、土壌の微生物の活性化を促し、植物の元気な育成に役立つ効果があります。また、家庭では、トイレなどの消臭剤として使うことができ、まさに一石二鳥です。

「えひめ AI」は、手賀沼トラストが目指している自然と共生する有機（生態系）農業にも通じるものがあり、野菜作りなどに活用し、役立てたいと思っています。 （村山 正 記）

活動報告　農教室に参加して　　農事・農教室グループ（4 月 14 日）

4 月 14 日（土）は私にとって初めての農教室受講日でした。3 月 3 日に平成 24 年度の受講の申込みをしたものの、3 月中はシフトの休みが上手くとれず、開講式にすら出席できずにいたので、この日は朝からのあいにくの雨でしたが、胸躍らせて会場の根戸城址に向かいました。

8時丁度に着きましたが、会場にはもうたくさんの方々が集まっておられ、雨除けのためのブルーシートを使った臨時の屋根が張られ始めていました。

出来上がった屋根の下、この日は水稲のうちの予措までを学びました。始めに 1 時間ほど遠藤先生の講義を聴き、その後に実習に移りました。実習ではうるち米、もち米、黒米、赤米の 4 種類の種籾を混ざらないように注意しながら塩水選、種子消毒、種籾の浸種までを順に行いました。次週の農教室までには浸種日数が満ち催芽処置も施されるとのことでした。雨も止まないため、この日の教室はここまでで解散となりました。

4 月 21 日（土）は曇りのち晴れとなりましたが、この日には水稲の播種とサトイモの植付けを学びました。この日の授業で興味深かったことはサトイモの中で八つ頭（熱帯性グループ）は親芋を食べるのに対して、日本で古代から栽培されてきた普通（？）の里芋（温帯性グループ）の親芋は不味くて食べられないということでした。店頭で見かけているサトイモは種類によって親芋だったり子芋だったりしていたんですね。これから店頭で普通の里芋を見かけたら、子供が頑張っているように愛おしく見えることだと思います。

4 月 28 日（土）は晴れで、トウモロコシの講義を受けた後、ボカシと堆肥の切返し作業、及び水稲のプールの設置を田んぼ脇で、トウモロコシの播種はミカン山下圃場で行いました。この日の授業では遠藤先生が講義中に C4 植物についての説明をされる際「光合成」という文字と化学反応式を板書された。その途端、昔懐かしい記憶が蘇り、「そうだ！　植物って、酸素を排出してくれていたんだ」と、あらためて納得し、「農業に触れていくことは酸素供給の面からしても人様の役に立つことなんだ」と、自分なりに農教室参加の意味を見出したように感じました。　（伊東 律子 記）

活動報告　樹林地管理他　　環境保全グループ

4月1日（日）（日暮会場整備、清掃）　4月の声を聞いてから、根戸城址の桜もだいぶつぼみが膨らんで来たように思われます。4月度1回目の定例会は、集会場の掃除から取り掛かりました。トイレ 脇が一輪車の収納場所なのですが、前代表の日暮さんが犬を飼っていた頃の犬小屋が物置と化していましたので、まずはそこから片付けです。使えるもの、不要なものを分別するところから始めました。 テーブル類は残して、藁の袋は堆肥場所へ運搬、古タイヤは処分することに。 終わるころには、ずい分とすっきりしました。また、並行して納屋の整理と片付けを行って、 少し早かったのですが、10時半ごろには作業を終えました。 11日のマルイ福祉会の受入れには、満開の桜が出迎えてくれることでしょう。

4月11日（水）（マルイ福祉会ボランティア受入れ）　数日前から天候が心配されていましたが、前日に福祉会と実施をすることを確認し当日を迎えました。朝方に降った雨は上がっていましたが、10時過ぎに福祉会メンバーが根戸城址に到着したころにはどんよりと曇って来ました。福祉会からの寄贈品の授与が行われ、理事長がお礼を述べ、作業を始めました。天気が心配なため、26人の参加者を2班に分けて、みかん山と根戸城址とで並行して作業にあたりました。筆者は、みかん山を担当しました。数日前から会員のＫさんのご指導を受けておりましたので、先ずは先日の活動で伐採した松の枝の片付けから入りました。雨が降出す中、みかんの植樹を行い、その後に北側斜面の上部に防風用にベニカナメを1列植えました。 雨が強くなったため、作業を中止して、昼食の準備に取り掛かりました。恒例の餅つきです。やはり、若者よりは経験十分な年配の方のほうが腰つきが良いです。4臼つき終えたところで、昼食です。もちやおにぎりをたらふく頂きました。そうこうする内に、雨があがったので、今までの活動の振り返りと称して、全員で根戸城址とみかん山を視察しました。一部で、竹を運搬する作業が入ったりしましたが、3時前には無事に作業が終了しました。福祉会の皆さん、これに懲りずに来年も参加をお願いします。8日に花見をした時には、8分咲きだった桜も、この日は見事なまでに満開でした。お手伝いいただいた会員の皆様ありがとうございました。　（原田 泰夫 記）

活動報告 NPO 法人バイオライフの搾油所見学と天ぷらパーティ　　農地保全グループ

取手市の旧高須小学校（廃校）にあるNPO 法人バイオライフの活動拠点（事務所・搾油所）を 4 月 22 日（日）に訪問した。バイオライフは、茨城県南部地域において、遊休＆荒廃した農地で、菜の花、ひまわり等を栽培して植物油を生産し、その油粕を肥料や飼料に再利用し、廃食油からはバイオディーゼル燃料を精製するなど、この地域の循環型社会の実現を目指して、2008 年 4 月に設立された NPO 法人です。

旧小学校の給食室を活用した搾油所には、昨年更新したドイツ製の搾油機が置かれ、樹脂製の樽のような容器（再利用）に、菜の花、ひまわり等の調整された素材が保管されており、その数は壮観である。これらはバイオライフやその協力団体が収穫したもののほか、外部から持ち込まれたものであり、依頼に応じて搾油し、瓶詰めにして発送している。

バイオライフの搾油の特徴は、焙煎とか蒸すなどの熱処理をしない「低温生搾り」であり、化学処理も一切ないため、素材の組成そのままの植物油にある。

休耕地を活用した菜の花の栽培から始まる「バイオライフの輪」（循環型社会の一つのモデル）の実現をめざす同法人の活

動は、入口に違いはありますが、手賀沼トラストのめざすものと多くの共通点があると感じました。菜の花の栽培からミツバチ談義となり、その場で我がトラストのHPを立ち上げて、冬水田んぼやそば栽培にも話の花が咲きました。

さて、肝心の天ぷらパーティですが、開始時刻が迫るなか、野菜のカットやそら豆むきを手伝うなどして交流に努めた後、男性による10種近くの野菜や魚介の天ぷらと素揚げ料理を堪能いたしました。油の良さもあって、会費千円には十分お釣りがくる内容でした。 バイオライフの活動等に関心のある方は、http://npo-biolife.jp/にアクセスしてみて下さい。最後に、天ぷらと蕎麦のコラボも良いねとの話になりました(笑い)。 (鴫谷 潤 記)

活動報告 手賀沼トラストサロン　　交流事業グループ(4月15日)

4月 15 日(日)「福島原発事故による放射能汚染と農業への影響について」と題して茨城大学農学部の小松崎先生のセミナーが開催され、参加しました。

最初に遠藤理事長から、本来、こうしたセミナーは、設備の整ったセミナー会場を準備してお願いするのですが、小松崎先生から普段の活動している現場で意見交換をしながら、開催したいとの意向があり、手賀沼トラストの拠点としている場所で開催することとなった旨のお話がありました。

桜の花吹雪が舞う青空教室で 48 名の方が参加、放射能問題に対する関心の高さを感じました。講演に先立ち、小松崎先生から2月18日(土)に私達が活動している、田んぼ、畑、ミカン山で採集した土壌について、測定方法、測定結果を分かりやすく説明して頂きました。測定方法は、地中にパイプを打ち込み、地表～30cmの土壌を層別に採集、5cmごとに切り分け、乾燥、粉砕して特殊な測定器で測定したとのことでした。事故当時は、測定器そのものがなかったこと、測定器の量産要請で使われる古い鉛の需要が高まり、結果として沈没船の鉄の値段が高騰したとの裏話もありました。測定結果は、千葉県の公表データとほぼ同じか、またはそれ以下の結果が出たが、ミカン山の一部でやや高い数値が測定されたとの報告でした。これは、くぼ地でサンプルを採集したため、上から水が流れ込んだ影響ではないかとの見解が示されました。

放射能物質のセシウム134、137の半減期が前者は2．1年、後者は30．2年とのこと。土壌への吸着では粘土鉱物に吸着された放射性物質は、環境中に放出されにくい調査結果が出ていること。土壌汚染と植物への移行については、カリウムとのバランスの良い施肥管理でセシウムの移行が軽減できる効果があることやチェルノブイリ後の南ドイツのデータに空間汚染の数値が高くても作物から検出される数値は、事故後1～2年経過後は急激に下がり、基準値の1ベクレルを超えていない結果などの報告を聞くことが出来ました。

最後に放射能汚染の影響は、長期的であり、また、未知の体験であることから、継続的にモニタリング、安全性の確認をしながら、地域住民、農家、研究者が同じ視点に立って、じっくり考え、対応していかなければならない問題との指摘がありました。

講演後、質疑応答が行われ、「福島の果物は食べて大丈夫なのでしょうか？」といった消費者の立場、「風評被害が深刻な問題、データを発表する場合も慎重な対応をお願いしたい。」との生産者の要望も出され、先生から丁寧なコメントがありました。放射能問題を考えるうえで有意義なセミナーでした。 (平井 幸夫 記)

会員コーナー　　日本ミツバチの話(その8)　　富澤 崇

いよいよ、採蜜である。日本ミツバチの巣箱は重箱式に作る。外径30cmほどの、底のない重箱のような木枠を作り、それを数段重ねて、底板と天井板をつける。下段にハチの出入口をつければ出来上り。ミツバチは天井板から牛の舌のような巣を何枚も垂れ下げる。そして、上のほうに蜜を貯め、育児は下のほうで行う。そこで、越冬にむけて蜜をたくさん貯めた秋に、上の方に貯まった蜜を、越冬分を残していただくのである。重箱にしてあるから最上段を切り離せばよい。

セイタカアワダチソウが咲き始めた、気持のいい秋晴れの日だった。こんなときだけはかいがいしく手伝う女房と 2 人で取りかかった。なんとか切り離した最上段には、真っ白な巣板に黄金色の蜜がまぶしかった。切り離しに使ったパン切りナイフから滴り落ちてくる蜜、巣板からあふれ出る蜜。森の熊が刺されながらも蜂の巣を襲う気持がよく分かる。女房も私も両手の指先についた蜜を夢中で舐めた。

新蜜は巣板ごと食べるのがうまい。軽く焼いたパンにバターを塗り、その上に巣板つきの蜂蜜を塗りつける。とけたバターとしみこんだ蜂蜜の、芳醇な、しかし品のよい甘み。普段はバター風味などといういかがわしいマーガリンを使っている我が家も、この時ばかりは純正バターを使う。いずまいを正して蜂蜜を食するのである。

巣板つきは一般的ではないので、ご近所用には絞らなければならない。日本蜜蜂は大人しいとはいえ、いつなんどき悪さをしないとはかぎらない。むこう三軒両隣への挨拶は欠かせない。そして息子、娘のところ、親戚、と配るとあらかた無くなってしまう。

蜜は伝統的な垂れ蜜法で絞る。垂れ蜜法というとたいそうだが、なんのことはない、ただ自然に垂れてくるのを待つのである。巣板ごと細かく砕き、ざるに盛り、室内の暖かいところに置いて自然に垂れてくる蜜を器に受ける。2 日くらいかかるが、雑物の混じらない美しい蜜が採れる。巣板にはまだ蜜が残っているので、重しを乗せたり手で絞ったりしてさらに蜜を採る。絞りカスの巣板は大鍋で煮て蜜蝋を採る。この蜜蝋は翌年、蜂を捕獲するときに使う。また、純天然素材の蜜蝋クリームなども作れる。

しかし、好事魔多し、禍福はあざなえる縄のごとし、といった話は次回。

● 4月度 活動報告

活動日		時 間	区 分	参加者	活 動 内 容	担当部門
3／29	木	9:00	農教室	8名	ボカシ肥切返し、特別コース井戸洗い場整備	農事G
3／31	土	9:00	農教室	8名	特別コース第1回セミナー	農事G
4／1	日	8:30	定 例	6名	根戸城址、日暮会場清掃、納屋の整理	環境保全G
4／11	水	8:30	合 同	20名	マルイ福祉会ボランティア受入れ、根戸城址公道整備、ミカン山植樹	環保、交流
4／14	土	8:30	農教室	55名	種籾予措、講義「えひめAI」(講師杉野副理事長)	農事G
4／15	日	9:00	サロン	48名	茨城大学農学部小松崎准教授講演、ニンジン、ヘチマ播種	交流、農事
4／21	土	8:30	農教室	73名	種籾播種、プール設営、サトイモ・ヤツガシラ植付け	農教室
4／22	日		視 察	2名	NPO法人バイオライフ視察	農地保全G
4／25	水	9:00	竹教室		ランチョンマット制作	環境保全G
4／28	土	8:30	農教室	58名	トウモロコシ播種、ニガウリポット育苗、堆肥・ボカシ肥切返し	農事G
4／29	日	9:00	農教室	8名	特別コース第2回セミナー	農事G

● 5月～6月度 活動計画

活動日		時 間	区 分	活 動 内 容(留 意 事 項)	担当部門
5／6	日	8:30	合 同	田んぼ畦補強・除草、スイカ・ナス定植	農事G
5／12	土	8:30	農教室	落花生・トウモロコシ播種、カボチャ・ヘチマ定植	農事G
5／19	**土**	**8:30**	**合 同**	**田植え・早苗饗(参加費500円)、各自お弁当・飲み物をご持参下さい。**	**全グループ**
5／23	水	9:00 18:00	竹教室 会議	H24年度第2回定例理事会	環境保全G 事務局
5／26	土	9:00	農教室	特別コース第3回セミナー	農事G
5／27	**日**	**13:30**	**会 議**	**通常総会・懇親会(参加費:500円)、欠席の場合は委任状を23日までに提出のこと**	事務局、交流
6／3	日	8:30	定 例	樹林地、ハス田、田んぼ管理	環境保全G
6／9	土	8:30	農教室	サツマイモ植付け、ゴマ播種、圃場管理	農事G
6／23	土	8:30	農教室	圃場管理(除草、培土、追肥等)	農事G
6／24	日	18:00	会 議	H24年度第3回定例理事会	事務局
6／27	水	9:00	竹教室		環境保全G
6／30	土	9:00	視 察	特別コース第4回セミナー(茨城大学農学部農場、有機栽培農家等視察)	農事G

※ 環境保全グループ養蜂部会は状況に応じて随時活動します。
※ 熱中症対策、紫外線対策は各自充分に行ってください。
※ お問い合わせ:TEL:04－7184－3385(國方)、緊急連絡:HPの「お知らせ」テロップをご覧ください。

平成24年度第9回定例理事会情報

日　時:3月25日(日)18時00分～20時45分
出席者:遠藤、寺田、杉野、浅妻、國方、坂巻、原田、原
欠席者:関

【報告事項】
1. 3月度活動報告・・・・・・・・・・・・・・・グループリーダー
2. 2月度会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局長
3. 土壌放射線測定結果・・・・・・・・・・・・・・・遠藤理事長
4. 会員名簿、運営スタッフ名簿・・・・・・・・・・・事務局長
5. 平成24年度広報活動について・・・・・・・・事務局長

【審議事項】
1. 4月～5月度活動計画について・・グループリーダー
2. PR用パンフレット作成について・・・・・・・・・事務局長
3. 社協ボランティア行事保険について・・・・・事務局長
4. 平成24年度事業計画(案)について・・・・事務局長
5. 平成24年度活動予算(案)について・・・・事務局長
6. 金塚古墳へ通ずる公道整備・・・・・・・寺田副理事長

ご寄付をありがとうございました！

白山在住の清和産業(株)佐々木様から日ごろの手賀沼トラストの活動にご賛同頂き、田んぼ用ポンプのベアリング、水漏れシール交換に係る費用のご寄付を頂きました。

編 集 後 記

◆ 5月27日(日)に法人格を取得して初めての通常総会を開催します。ご案内は5月10日頃発送する予定です。大勢の方のご出席をお願いします。

◆ 今年も田植えの時期が近づいてきました。苗も順調に育っているようです。プール育苗の準備も終わり、田植えを待つばかりです。お友達やご近所の方をお誘いのうえご参加ください。

◆ 自宅から根戸城址に向かう「ハケの道」に卯の花が咲き、斜面樹林地が若葉で輝いています。老骨にも力が漲る季節です。今年も豊年を期待しつつ。(國方記)